Welcome to a Library

ようこそ図書館へ

第27号

2019年11月
津市図書館

おもな内容

P1～P2…郷土の歴史を知る講座
P3……知ろう私たちの郷土
P4……レファレンス事例集、おすすめの本

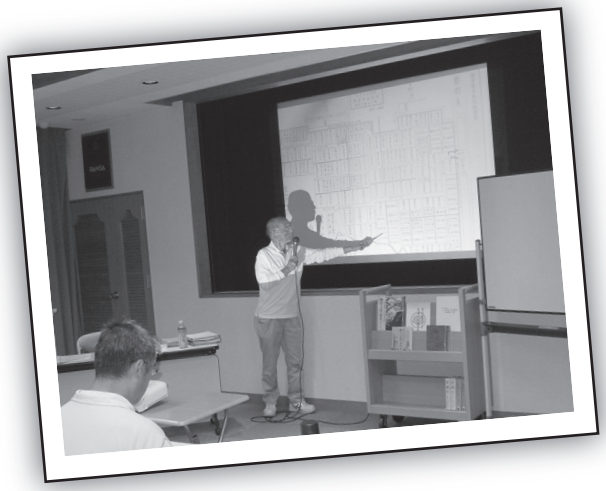
図書館で郷土の歴史を学ぼう

久居ふるさと文学館　郷土の歴史を知る講座

令和元年(2019年)は「津藩」から分かれ「久居藩」として1669年に立藩して350年という節目の年になります。これ以後、1670年(久居城下の建設)、1671年(高通公入府)の３年間で藩としての体制を整えていく事になります。この「久居誕生350年」にちなんで久居ふるさと文学館では久居の歴史にスポットをあてた講座を開催しました。

この２つの講座を通して、久居藩について知っていただく良い機会となりました。久居の歴史に少しでも興味を持って、文学館の郷土資料を活用していただければと思います。

図書館で学ぼう！「第二回久居の歴史」(全６回開催)



この講座は、久居地域の歴史を身近に学んでいただこうと平成30年(2018年)から始まった講座で、本年度は、令和元年(2019年) 7月25日(木)を第１回として始まり、最終回 10月24日(木)の全６回が開催されました。

講師は昨年に引き続き「久居城下案内人の会」の今井博さんです。昨年は久居藩を中心に全４回開催しましたが、「もっと詳しく！」との要望も多く、本年度の講座は、「古代」「中世」「近世」をそれぞれ前編・後編とに分け、「古事記」や「日本書紀」はもとより、「木造記」や「宗国史」など古い文献を確認しながらより詳しく解説していただきました。

「古代」では、久居近隣の縄文時代の遺跡の説明や雲出川に沿って大和から伊勢への交通の発展と稲作の伝来についてお話があり、実際に付近の遺跡の出土品を拝見し歴史をより身近に感じられました。

「中世」は、平安時代から戦国時代まで、藤原氏の盛衰、源氏と平氏の争いや、室町時代では国司であり、戦国時代においては公家大名であった「北畠氏」の家系図を紐解きながら、「久居陣屋」「木造城」「戸木城」などの歴史について、城跡の現状を現地調査の体験談も交えてのお話でした。講師のお話を聞いて実際に城跡に行ってみようと感想を漏らした方もみえました。

「近世」は、津藩・久居藩の藤堂一族の系図の流れや、「藤影記」などわかりやすく書かれた資料で確認しながら、石高や歴代藩主の功績など説明がありました。

豊富な資料とプロジェクターを使っての講話で大変わかりやすく、これを機に久居の歴史や古文書に興味を持った方もみえたようで、とても充実した講座になりました。

久居藩立藩350年記念講座　①『久居のお殿さま』②『戦国武将の夫人たち』

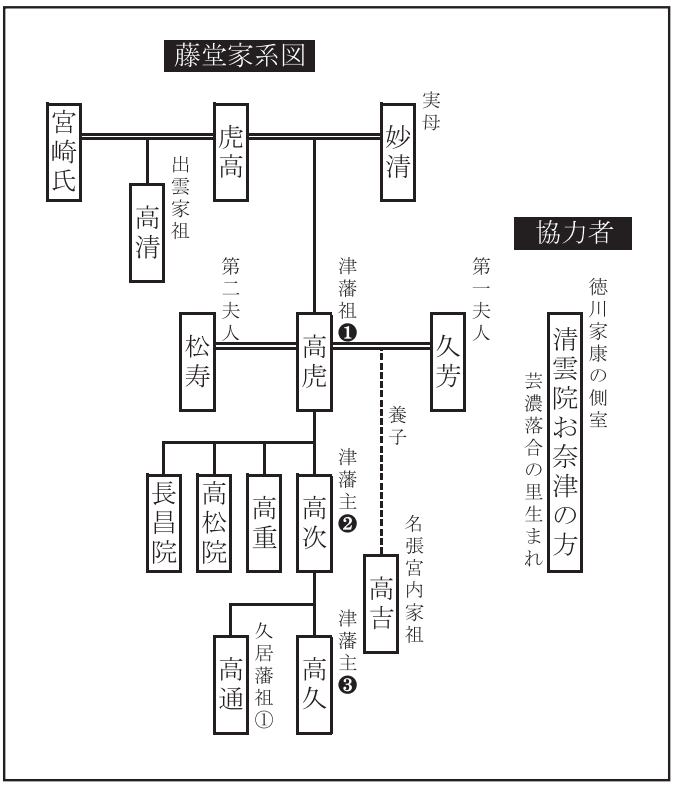
「津藩」の支藩として350年前に誕生することとなった「久居藩」が以降どのような役割を持っていたのかをテーマにした「久居のお殿さま」（令和元年（2019年）９月８日（日））、一方、語られる機会が少ない「女性」の生涯とその役割をテーマにした「戦国武将の夫人たち～藤堂高虎公をめぐる女性たち～」（10月20日（日））の２講座を開催しました。

この２日間の講師を務めていただいたのは、三重歴史研究会相談役、椋本千江さんです。

「久居のお殿さま」では、椋本さんが執筆し久居城下案内人の会が発刊した「久居のお殿さま」に沿った内容で、久居の基礎を築いた歴代藩主16代についての解説や津藩との関係、大名の生活として軽視できなかった参勤交代・大名行列、またお殿さまの一日の過ごし方などについてお話をしていただきました。

「戦国武将の夫人たち」では、藤堂高虎公と関わりのあった女性たち、妙清・久芳夫人・松寿夫人・高松院・徳川家康公の側室のひとりである清雲院お奈津の方について解説があり、家を守るという大切な役割をもつこととなる夫人たちの心得や身支度の仕方など、生活に関わるお話もしていただきました。

参加者の皆さんは、お殿さまに親近感をいだき、普段聞くことの少ない女性たちのお話にとても興味を持たれていました。



講座に関連して用いられた資料

『日本書紀を読む』河村　望／著　人間の科学社
『三重県郷土史叢書６巻　木造記』
『宗国史　上下巻』上野市古文献刊行会／編　同朋舎
『伊勢久居藩史　藤影記』梅原　三千／著　三重県郷土資料刊行会
『久居のお殿さま　久居藩三百五十年記念』椋本　千江／著　久居城下案内人の会
など

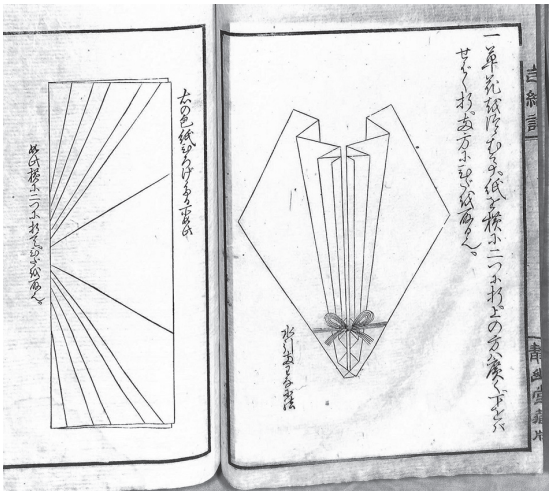
郷土史の原典76

知ろう私たちの郷土

『つつみの記』に見る昔の贈り物の包み方

川上裕子

『つつみの記』
左：上下巻表紙
下：上巻「草花包事」



「一　草花をつゝむ事。紙を横に二つに折。上の方ハ廣く。下をバせばく折。両方にひだを取る也。」

上の写真と文は、津図書館が所蔵する「橋本文庫」の資料の1つで、伊勢流の包み方について記した『つつみの記』上下（橋38-10～11）の表紙とその一部分である。この資料は、弓や草木花、扇、巻物、貝桶、太刀などの物を贈る時にそれぞれに合わせた包装の仕方を絵とともに記したものである。この資料を現代語に訳した『包結圖説（ほうけつずせつ）』の解説では、元々は宝暦十四（1764）年に上下二巻で出版されたものが、天保十一（1840）年に一冊にまとめて再刊されたという。

著者の伊勢貞丈（さだたけ）は、享保二（1717）年に生まれ、天明四（1784）年に没した、江戸時代中期の有職故実家（ゆうそくこじつか）である。貞丈は俗称で、通称は平蔵、号は安斎という。貞丈は十歳の時に家督を相続し、その後有職故実家として家伝の書物を編集し、関連する資料の模写や各家より資料を集めて研究・編纂を行った。

彼の一族である伊勢氏は、足利家に長年仕えて来た側近で、伊勢守に任命されて以降は伊勢氏を名乗った。室町幕府では政所執事（まんどころのしつじ）を務め、所作の相談役としても関わり、伊勢流と呼ばれる礼法を編んだ。

彼らは伊勢流を代々継承し、戦国時代にはさまざまな大名に仕えてそれを教え、後に江戸幕府に仕えることとなったという。

さて、資料の中身について見ていくと、まずは目次として収録内容がまとめられている、各項目の最初に説明を記し、上巻は「包之部」として和紙による包み方を、下巻は「結之部」として紐による結び方をそれぞれ図で記してまとめている。例えば、冒頭に引用した上巻の「草花包事」として草花の包み方を記した部分では、図の横には「右の色紙ひろげたる所如此」、「如此横に二つに折て。ひだを取也」と図とともに折り方の説明がある。また、「結之部」では、紐を結ぶ途中の図も載せることで、複雑な結び方も伝わるように工夫されている。他にも、全ての項目ではないが実際に物を包んだ時または結んだ時の完成図も載せるなど、天保十一年の序文に、「初学のたすけなるへき」ものとあるように、分かりやすい資料となっている。

今回紹介した資料からは、伊勢流の包み方・結び方はもちろん、現代まで続く包装の文化の歴史の一部を知ることができる。

～ちなみに～

このように物を包むために紙を折ることまたは折った紙のことを昔は「折形（おりかた）」と呼んでおり、現在の「折り紙」の基になったと言われている。

参考文献
国史大辞典編集委員会編『国史大辞典』第一巻（吉川弘文館　昭和五十四（1979）年）、日本古典文学大辞典編集委員会編『日本古典文学大辞典』第一巻（岩波書店　昭和五十八（1983）年）、伊勢安斎著・佐々木浩一訳注『包結圖説　伊勢流 図解・紙包みと紐結び』（国書刊行会　昭和六十二（1987）年）、鈴木敬三編『有職故実大事典』（吉川弘文館　平成十（1998）年）、小学館国語辞典編集部編『日本国語大辞典』第3巻（小学館　平成十三（2001）年）、小和田哲男監修『日本史諸家系図人名辞典』（講談社　平成十五（2003）年）　など

レファレンス事例集

Q 昭和４９年(1974年)７月２５日に起きた志登茂川の氾濫(水害)について知りたい

A 集中豪雨により志登茂川が増水し、川の流域にある一身田や栗真などの地区に大きな被害が出た水害です。
「伊勢新聞」マイクロフィルム(昭和４９年７月・８月)、「市民文化」No. ２、「伊勢年鑑」昭和５０年・昭和５１年「三重県歴史災害史年表稿」、「写真でつづる一身田」、「津市市制施行１００周年記念誌」、「津市市政だより昭和５９年総集編」、「津市地域防災計画」を紹介しました。

～図書館員のおすすめの本～

「『しまかぜ』『青の交響曲(シンフォニー)』誕生の物語」 堀内重人／著　アルファベータブックス

青と白の華麗なフォルム。津市沿線で見られるチャンスは１日２回。シャッターチャンスを狙いカメラを構えた人を見かけることも多い特急「しまかぜ」と、吉野へと走る「青の交響曲」の誕生までの道のりを書いた読み応えのある１冊です。
１９８８年の「アーバンライナー」、１９９４年の「伊勢志摩ライナー」、２０１３年の「しまかぜ」、そして、２０２０年３月にデビューを控える「ひのとり」など、それぞれの年代で大きなインパクトを与えてきた近鉄特急の開発から今後の展開までを豊富な情報とわかりやすい解説で読むことができます。

「おおかみのおなかのなかで」 マック･バーネット／文　ジョン･クラッセン／絵　なかがわちひろ／訳　徳間書店

物語では悪役にされることが多いオオカミ。「でもオオカミだって本当はね…」という絵本が大好きです。『アナベルとふしぎなけいと』のマック･バーネットと、『どこいったん』のジョン･クラッセンが贈る、「オオカミだって本当はね、色々大変なの」と思わずにはいられなくなるユーモアたっぷりの絵本です。

開館時間・休館日などのご案内

館(室)名及び所在地		開館時間
津図書館 ☎229-3321	西丸之内23-1 津リージョンプラザ内	平日／9:00～19:00 土･日曜日、祝･休日／9:00～17:00
久居ふるさと文学館 ☎254-0011	久居東鷹跡町2-3	平日／9:00～18:00 土･日曜日、祝･休日／9:00～17:00
ポルタひさいふれあい図書室 ☎254-0464	久居新町3006 ポルタひさいふれあいセンター内	平日／10:00～21:00 土･日曜日、祝･休日／10:00～18:00
河芸図書館 ☎245-5300	河芸町浜田782	10:00～18:00
芸濃図書館 ☎265-6004	芸濃町椋本6824 津市芸濃総合文化センター内	9:00～17:00
美里図書館 ☎279-8122	美里町三郷51-3 津市美里文化センター内	9:00～17:00

館(室)名及び所在地		開館時間
安濃図書館 ☎268-5822	安濃町東観音寺418 津市サンヒルズ安濃内	10:00～18:00
きらめき図書館 ☎292-4191	香良洲町2167 津市サンデルタ香良洲内	9:00～17:00 (7･8月の平日は18:00まで)
一志図書館 ☎295-0116	一志町井関1792 津市とことめの里一志内	10:00～18:00 (7･8月の平日は19:00まで)
うぐいす図書館 ☎262-5000	白山町二本木1139-2 津市白山総合文化センター内	平日／10:00～18:00 土･日曜日、祝･休日／9:00～17:00
美杉図書室 ☎272-8092	美杉町八知5580-2 津市美杉総合文化センター内	9:00～17:00
休館日(全館共通)	火曜日･毎月最終木曜日(館内整理日) 年末年始(12月28日～1月4日)	

※特別整理期間(年1回、14日以内)などで、臨時に休館することがあります。
詳しくは、図書館カレンダー、津市図書館ホームページなどをご覧ください。

津市図書館ホームページ及び携帯版ホームページ　http://www.library.city.tsu.mie.jp/

携帯電話ＱＲコード

本の返却は期限内に

ようこそ図書館へ　第27号
発行日／令和元年11月30日　編集及び発行／津市教育委員会事務局津図書館
三重県津市西丸之内23番1号　津リージョンプラザ内　☎(059)229－3321